

令和 5 年度障害者差別解消法セミナーの実施報告

区民を対象とした障害者差別解消法の普及啓発セミナーについて、令和 5 年度は、区立障がい者福祉センターとの共催により、以下のとおり、講演動画を Web 配信した。

1 セミナー概要

講演タイトル	導入 「特別支援学校からの声」 第 1 部「差別解消セミナー —多様性社会におけるインクルーシブ教育—」 第 2 部「障がい当事者からのインタビュー」
講師	柏倉 秀克（桜花学園大学保育学部 教授）氏
申込・配信期間	令和 5 年 12 月 8 日(金)～令和 6 年 1 月 31 日(水) まで 電子申請サービスでの申込
配信媒体	板橋区公式 YouTube チャンネル「チャンネルいたばし」
動画内容	導入「特別支援学校からの声」約 20 分 ・ 児童・生徒の 1 日の活動紹介 ・ 児童・生徒、教員へのインタビュー ・ 副籍交流の様子 など 第 1 部「多様性社会におけるインクルーシブ教育」約 60 分 ・ 障がい者差別とは ・ 合理的配慮と差別的取り扱い ・ 多様性（ダイバーシティ）とインクルージョン ・ インクルーシブ教育実現に向けた課題 など 第 2 部「障がい当事者からのインタビュー」約 30 分 ・ 第 1 部講演に対する意見、感想 ・ インクルーシブ教育に必要なこと ・ ご自身の学生時代に教育に対して思っていたこと など
障がい当事者 向けの配慮	字幕・手話通訳の投入

2 周知方法

- (1) 区ホームページ内、障害者差別解消法ページへの掲載
- (2) 広報いたばし、高島平新聞への掲載
- (3) チラシの送付（区民事務所、ふれあい館、健康福祉センター、福祉園、福祉事務所
図書館、区内障がい者支援機関等）

- (4) 区内掲示板でポスターの掲示
- (5) 区立小学校・中学校の校長会での呼びかけ
- (6) 区立福祉園の園長会での呼びかけ

3 視聴実績等

申込者数	166 名
視聴回数	導入 296 回 第 1 部 244 回 第 2 部 171 回
その他	区民の方からの、視聴に関する質問・意見等は申込方法の問い合わせ以外、特になし。

※参考：令和 4 年度の申込者数…86 名、視聴回数…第 1 部 151 回、第 2 部 89 回

4 アンケート結果

申込時に自動返信されるメールに、Web アンケートの URL を掲載。視聴後、任意で回答いただく形式とした。

(1) 回答者数

11 名（回答率：6.6%）

(2) 設問に対する回答

①セミナー情報の入手元（複数回答可）

- ・ チラシ……………4 名
- ・ 広報いたばし……………0 名
- ・ 高島平新聞……………0 名
- ・ 区ホームページ……………0 名
- ・ 障がい者福祉センターホームページ…2 名
- ・ 関係者・知人からの紹介……………4 名
- ・ その他……………3 名（職場の回覧、SNS など）

②講演内容

- ・ とても参考になった……………5 名
- ・ 参考になった……………6 名
- ・ どちらでもない……………0 名
- ・ あまり参考にならなかった……………0 名

③申し込まれたきっかけをお聞かせください（自由記述）

- ・ インクルーシブ教育に興味があったから。
- ・ 具体的な当事者の声が聴けること。
- ・ 合理的配慮やインクルーシブ教育について、深く理解したかったから。
- ・ 学校から連絡があり、どのようなものか見たかったから。
- ・ 法改正の内容を詳しく知りたかったから。
- ・ 特別支援学校の様子や当事者の方の声を聞くことで今後の支援に役立てたいと考えたから。
- ・ 定期的にこうした講義を受けることで、自身の差別に関する意識を高く保つ必要があると思ったから。

④講演内容の感想をお聞かせください（自由記述）

- ・ 講師の内容がとても分かりやすかった。
- ・ 障がいや法令について整理されており、分かりやすかった。イギリスの例はあまり知らなかったので、日本の取組と比較して考えることができた。
- ・ 言葉としては知っていることや、何となく分かった気になっていたことを、改めてしっかり理解する機会になった。
- ・ 特別支援学校の副籍交流の様子が少し分かった。
- ・ 当事者の方のインタビューに非常に感銘を受けた。
- ・ 障がいのあるなしに関わらず、共生社会を実現するためには、保育園や学校でともにふれあい、事情通の方々を増やしていくことが大切だと改めて考えさせられた。
- ・ 福祉施設でも、地域交流を頻繁に行うことが事情通を増やす一因にもなるかと思う。
- ・ 当事者のインタビューで、「障がいのある方も、他を理解し、お互いがお互いを考えられるような機会があるよい」という言葉にハッとさせられた。
- ・ 個人的に、インクルーシブ教育は懐疑的にとらえている。今の日本の教育システムは障がい児を教育材料にしているように思える。
- ・ 当事者インタビューで、「自分の親に、学校の様子をもっと聞いて、知ってほしかった」と言う言葉が印象的だった。

⑤その他、障害者差別解消法に関して、ご意見等あればお聞かせください。（自由記述）

- ・ 障害者差別解消法を知らない方がまだ沢山いると思う。障がい者の方が、必要な支援や配慮を受けられるためには、この法律をすべての人達に知ってもらうことが必要だと思う。
- ・ 過剰な支援や配慮は必要ないと思う。自立した生活を送るための支援、配慮がスムーズにできる世の中になってもらえたらと思う。
- ・ 合理的配慮について、配慮と特別扱いの境が分からないことがあり、難しい場面もあると感じました。障がいだけではなく、既往歴、LGBT、異文化など、様々な多様性を広く受け止め、一緒に生きていきやすい世の中にしていくということであれ

ば、障害者差別解消法という名前より、もっと広い意味の名称でもいいのではないかと思った。

- ・ 来年度から民間も合理的配慮が義務となると、様々なトラブルが予想される。教育に関わるものとして、教育の場で、子どもたちや保護者に啓発する取組を進めていきたい。
- ・ 気づかないうちに差別に相当する行為をしてしまうこともあるかもしれない。どういったことが不当な差別的取り扱いに該当してしまうのか、どのような合理的配慮の提供例があるのか、といった実践の事例をもっと知りたいと思った。こうした情報が広がることで、事前的改善措置も様々な場面で増えていくのではないかと思う。

5 次年度に向けての検討内容（事務局案）

令和2年度までは、障害者差別解消法セミナーを対面形式で開催していたが、令和3年度から令和5年度は新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、Web配信形式で実施してきた。3年間のWeb配信形式での開催を通し、オンラインのメリット、デメリットが見えてきた。また、区としてもIT機器の導入が進み、動画配信のノウハウも蓄積されてきている。

そこで、令和6年度は、対面で開催している様子を動画撮影し、後日、編集した動画をオンラインで配信することで、対面形式とWeb配信形式の両方の良さを活かしていきたいと考えている。